

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 3月28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100785		
法人名	株式会社 クローバー		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	731-1141	広島市安佐北区安佐町鈴張2687	電話 082-810-2280
自己評価作成日	平成28年12月31日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100785-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年3月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

どこか懐かしい雰囲気を持ち続け、いたるところに遊び心を維持し続けようとしている、開設2年目を迎えようとしている施設である。当事業所は「相手本意の心」を施設理念に、「地域になじむ新しい施設の創設」をテーマに、自然が豊かな町で「ここでしかない場所づくり」をめざしている。建物は平屋で安定感がある木造づくりで、息をし続ける建物構造に工夫をした。施設は「暮らしの空間」と「おもてなしの空間」が区分され、入居者自らが家人と過ごすことのできるラウンジや応接室等がある。また、閉ざされた環境下ではなく、地域住民との交流の中で過ごすことができるよう、地域交流スペースや子どもカフェ並びに地域のボランティアによる各種行事が盛りだくさんである。全職員の理解と協力のもと、入居者の「今」を見つめるケアの在り方を探り続けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

平成27年4月開設のグループホームである。周囲に田園風景が広がる広大な敷地を活かし、木造の広々とした建物である。事業所の2階に地域交流スペースをつくり、地域住民が気軽に利用できるようになってほかに、家族宿泊室を設け、終末期を迎えた利用者にも家族が宿泊しながら対応できる設備を整えている。また、家族のための広大な駐車場や、地域住民からの協力を得た野菜作りや、庭木を一緒に造作するなど、利用者・家族・地域住民が一体となって事業所作りに取り組んでいるのが特徴である。

事業所は利用者の人格を尊重し、「ここでしかない居場所づくり」のために、事業所全体で取り組み、家族からも大きな支持を得ている。代表自ら、職員・地域住民・家族と一体的な運営を行うことで、今後の発展がますます期待される事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。</p>	<p>認知症がある高齢者の日常生活を、地域住民の支援の下、住み慣れた環境・家庭的な生活維持を目的にサービスの提供を行っている。地域への貢献・社会福祉を担う者の育成を使命とし、解放された施設運営を心掛けている。職員全員で施設理念を共有し、実践に繋げるため、朝夕の唱和・自然・笑顔といった、環境維持に努めている。</p>	<p>地域住民の方からの日常的な行事への参加や、野菜の苗を事業所とやり取りしたり、2階の地域交流スペースを利用して地域住民と交流するなど、関係が密であり、職員もその理念をよく踏まえて業務を行い、管理者と職員の理念の共有ができています。その結果、離職率が低いなどの成果につながっている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。</p>	<p>家族会を設置している。運営推進会議を概ね2ヶ月に1回実施している。年間を通じて広報誌を発行している。掲示板により、地域近辺での予定プログラムを提示している。Facebookの発信、住民参加の教室・催し、保育所・小学校との交流会等、日常的に地域交流を計画、実施している。</p>	<p>野菜の苗や収穫された野菜や庭木の手入れなどを通じ、日常的に地域住民とのつながりがあるほか、地域の催しへの参加など、事業所全体として、日常的に地域の一員として交流している。また、事業所からもSNSを通じて、日常的に情報発信を行っている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げることで、認知症の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かし発信している。</p>	<p>施設内研修を地域公開研修としている。各専門職の研修やAED使用方・防火・防災訓練を地域合同にて実施している。その他、広島市認知症サポーター養成講座を実施している。管理者は、広島県全域にて地域包括支援センター・教育機関・一般財団法人・各種団体企業と連携を図り、認知症講座を開催している。介護職員の現任・初任者研修講師として、啓蒙活動を行っている。</p>	/	/
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者へのサービスの実際、評価への取組み状況等について報告・話し合いを行い、そこでの意見をサービス内容の向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議や家族会にて、現在行っているサービスの報告、今後、計画している行事予定などの情報交換を行い、そこで出た意見を再考し、反映させている。例えば、行事参加ボランティアを集める、行事の目的、企画担当者の思い、役割分担・時間配分についての意見を求める等、最大限施設で取り組める運営を行っている。反省会も必ず行い、次回への参考にしている。</p>	<p>家族会や運営推進会議を通じ、利用者サービスに関する意見交換を密に行い、ボランティアの協力を得るなど、地域住民との交流やサービス向上に活かしている。家族が参加しやすいよう、日曜日に開催するなどしている。</p>	
5	4	<p>○市町との連携</p> <p>市町担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。</p>	<p>広島市の福祉関係機関担当者、安佐町グループホーム連絡協議会等との連絡、連携をとり、事業所の実績やケアサービスの取組みについて、協力関係を構築している。運営推進委員との連携を計画的に図り実地している。広報誌Gh556配布・毎月行事案内。・SNS利用などがある。安佐町合同バレーボール大会、カラオケ大会などに参加し、日頃から地域包括支援センター等との連絡を密にしている。</p>	<p>近隣のグループホームとともに、連絡協議会を開催したり、地域包括支援センターとの交流も日常的に行っている。広報誌の配布や、スポーツやカラオケ大会など、地域の行事や職能団体との連絡会に積極的に関与することで、市との協力関係を構築している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>年間を通じて、各研修を計画的に実施しており、身体拘束の研修やコンプライアンスを主とした研修等を行い、指定基準の禁止の対象となる具体的な行為を、正しく理解するように努めている。また、夜間並びに休日の事務職員不在時は、入居者の安全確保と防犯上の観点から、生活空間とその他の空間を施錠するが、その他の時間帯は行っていない。</p>	<p>身体拘束に関する職員研修を行っているほか、やむを得ず拘束を行わなくてはならない場合、カンファレンスや意見交換を職員間で行っている。その結果、拘束に対する問題意識が職員の間から起こるなど、職員の意識を高めることにつながっている。</p>	<p>次のステップに向けて期待したい内容</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>尊厳あるケアの提供に努めている。虐待、人権、同和研修を施設内で行っている。施設外での研修参加、職員休憩室に参考文献の提供等、職員が主体的に自己研鑽できる環境を整えている。虐待などを見過ごすことが無いよう、注意を払い、勇気をもって発言出来る環境、防止に努めている。豊かな人間性の育成、職員指導に趣きをおいている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。</p>	<p>後見人がいる入居者については、個々の必要性を関係者と話し合い、日々の状況をメールにて報告することなどを実施している。特に、入居者の状況と家人の思いが大幅に異なる場合等については、昼夜にわたり後見人と連絡を密にし、情報の共有を図っている。日常生活自立支援事業については、活用する入居者は現在はいないが、家人と前記の入居者と同じように実施し、管理者のみが家人等へ連絡をするのではなく、担当職員が家人へ毎月手紙を出す等、全職員で、個々に応じた接点を持っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約に関する説明と同意については、約3時間の時間を使い、個々に実施している。契約までに、入居者の見学を原則として、入居者本人の納得の上で、家人と共に入居に向けて、分かりやすく説明を行い、理解・納得を得られるように努めている。また、入居者や家人が不安や疑問点を質問しやすい状況を作るために、管理者と連絡がしやすい環境を個々に設置している。施設内には意見箱の設置を実施し、日々、受け付けられるよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>概ね、2か月に1回の家族会を兼ねた運営推進会議を実施し、入居者や家人の地域の意見や要望を受け入れ、運営に反映する努力をしている。また、外部評価を実施することにより、家人に対する匿名アンケートや職員個々がアウトカム項目のチェックの実施により、現在の運営を振り返ることにより、さらに基本を大切にして、自己確認をする機会を得ている。</p>	<p>運営推進会議や家族会、家族面会時において、利用者の処遇に関する話し合いが行われている。利用者家族ともSNSを通じて日常的に意見交換を行い、密なコミュニケーションを図り、事業所運営に活かしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎週実施する秘書課・地域連携室との連絡会議、月一回実施する経営会議・職員全体会議・レクカンファレンス、ケースカンファレンス、適宜、実施するユニットカンファレンス、職員個別面接等を行っている。また、職員の意見で、入居者との野外バーベキュー・地域の方の協力による餅つき、職員と各種ボランティアとの忘年会等を実施している。</p>	<p>事業所内の会議のほか、定期的なカンファレンスや個別面談を行っている。また、代表は気さくに職員に言葉かけを行っており、職員はいつでも意見を気軽に言いやすい雰囲気がある。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>入社前面接・筆記試験・作文・経験値・資格等を考慮して、給与や分掌を精査している。不得意な部分を積極的にできるように指導するのではなく、職員個々の得意なところを業務に生かせるよう担当を区分し、付随して不得意な業務が向上できるよう、職場環境を整える努力をしている。必要に応じ、個人面談を実施している。また、給与水準の確保については、有資格者の確保と常勤職員を登用することにより、認知症専門ケア加算を算定し、介護職員処遇改善加算を、毎月支給するよう計画をしている。</p>			
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>施設内研修を、概ね1か月に1回実施するとともに、適宜、施設外研修に職員を選定して参加させて、職員教育を実施している。認知症実践者研修を年間1名以上、施設負担にて受けられるよう環境を整えている。また、介護プロフェッショナルキャリア段位制度における、OJTを実施する評価者を施設内配置しており、年間1名以上をレベル認定者とする計画を整備している。そのほか、介護プロフェッショナルやユニットリーダーを育成している。</p>			
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>グループホーム安佐町連絡会・地域包括支援センター等同業者との交流・ネットワークづくりや、介護支援専門員等の勉強会などに、施設提供を行うことにより、サービスの向上を図る取り組みを実施している。また、近隣のユニット型福祉施設の見学や研修の実施、並びに地域の小学校・保育園等とのネットワークづくりに努め、相互のサービスの質の向上をさせる取り組みを実施している。</p>			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前には、ご本人の生活している環境の確認並びに本人面談を行い、本人の現在の状況を把握するよう努め、本人の不安解消の礎となるよう努力している。入居に当たっては、原則、本人が居室環境の選択並びに決定を行い、入居の運びとしている。入居日には、本人の希望や不安なこと等を担当者がアセスメントし、ケース担当者等と共にケースカンファレンス後ケア計画書を作成し、本人や家族へ説明、同意を実施している。また、入居者の状況を最優先し、人事異動等を行っている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている。</p>	<p>施設見学やインテーク並びに自宅訪問については、事前にアポイント時間を3時間設定し、ゆとりをもって接することを心掛けている。契約時は事前に時間をとるようにお願いし、休憩を挟むなど時間をかけて説明し、要望や気づきを相互に耳を傾けられるように環境を整えている。また、管理者との連絡を24時間可能としており、メール・電話等、SNSを利用した関係性作りを行っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居開始に当たっては、地域包括支援センター・居宅介護支援事業所や入院先の医療連携室等の照会又は、引越し業者の紹介・介護タクシー・近隣のホームセンター等の紹介をし、個々の必要としている支援を実施している。また、入居対象とならない入居者については、他の施設や一時的に医療が必要な場合には、その関係機関並びに本庁関係課に照会をかける等、本人や家族が必要としているものを早期に対応する努力をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>入居者のタイムテーブルについて、時間を決めることなく入居者と共に暮らす生活が送られるような関係づくりを築くよう努力している。具体的には、食事の時間について、朝食8時、昼食12時、夕食18時、前後2時間と設置しており、入居者が職員と共に主体的な生活者として、サービスを利用し続けられることができるように計画している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>概ね、2か月に1回の家族会を兼ねた季節の行事を、年間を通じて実施している。このことにより、家人に施設を身近に感じ、入居者との面会を増やすよう努力をしている。また、一方的な介護とならないように、入居者の担当職員から毎月、手紙を送付し、家人と共にケアできるきっかけを、日々、探る関係づくりを築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>入居者は、ほぼ地元の出身者であり、馴染みの景色と馴染みの場所で、現在も生活をしている。また、住み慣れた地域の中にある施設のため、馴染みの人の訪問もあり、人や場所の関係が途切れることなく生活を送っている。また、遠方の家族とは、Facebookやline等を利用し、テレビ電話等にてコミュニケーションが図られるよう支援に努めている。</p>	<p>利用者は地元の方が多く、馴染みの関係の知人も訪問しやすい。利用前の人との関係が途切れないよう、SNSやテレビ電話等を使用し、関係性が途切れないような支援が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>ユニット内にとどまらず、他のユニットへ近隣の入居者がいるためにお話しに行ったり、来ても良かったりと、ユニット間においても利用者が孤立しないように、関わりをもって生活できる様支援をしている。また、利用者同士の関わりの中で、入居者の負担にならないように職員が見極めながら、支援を継続的に実施している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>退居した入居者やその家族に対して、広報誌をはじめとして、関わりを持ち続ける関係づくりを行っている。また、次の入居先や病院への面会などを継続的に実施している。家族とのかかわりは継続してFacebookやlineなどSNSを利用した相談の受付等を実施している。</p>		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。意思表示の難しい方、混迷されている方など職員の観察情報を集め、本人本位に検討し対策や働きかけを試みてフィードバックしている。</p>	<p>施設理念「相手本意の心」を基に、日常的に、入居者が生活のなかで困難な場面、楽しんでおられる場面を、職員一同、情報の共有に努め、思いや意向の把握に結び付けている。基本的に、3ヶ月に1回アセスメントし、ケースカンファレンスを実施している。また、緊急性の高い場合は緊急カンファレンスなど実施し、状態に適した対応をしている。入居時や家族会などで、記憶の奥にしまっていた新たな情報・思いを掘り起こし、入居者共々、家族も一緒に、今後の暮らしの希望などを書面にして考える機会を作っている。</p>	<p>運営推進会議には利用者本人も参加し、例えば「どこに行きたいか」など、利用者の思いを聞き取り、反映する仕組みがある。また、カンファレンスの場や職員の連絡ノートに、利用者の様子などを書き込むことによって、思いを発しにくい利用者の意向を把握し、ケアに実現できるような取り組みがなされている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居前の情報収集で、アセスメントやフェイスシート等がある場合には入手している。入居前の面接訪問を行っている。生活環境や日常生活タイム・生活歴や馴染みの暮らし、また、これまでのサービス利用があれば経過等をケース記録に記載している。より多くの暮らしの情報、生活現状の把握に努めている。入居者とのコミュニケーションの中で、新しい情報を得た場合にもケース記録に書きとどめ、より多方面からの把握に努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>日常の暮らしの中で、一人ひとりの一日の過ごし方、時々の心身状態、出来ること、困難な事、それぞれが有する力の把握に努めている。</p>	<p>集団ケアと個別ケアを、介護計画書の中で表記区分し、入居者の心身の状況に合わせて、日々を流動的に、尚且つ、計画的にケアしている。その時々々の心身の状況に合わせて実施したか否かをケアチェック表にて確認をし、次の介護計画書へ反映できる様に記録している。また、介護日誌、申し送り、申し送りノートを職員間で共有することにより、現状を把握できる工夫している。細かな気づきにも職員間で伝達観察していける様、心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>入居者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアをよりよく工夫して、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画書については、介護職員の中からケース担当者を定め、介護支援専門員や看護師と共に、家族や本人の意向をもとに作成している。全職員の多様な視点から介護の実践を行い、ケアチェック表をもとに、モニタリングを行っている。また、介護計画書については、本人又は、家人等に説明し、同意を得られるよう手紙やメール等にて確認をしながら作成し、実施している。</p>	<p>介護計画書は代表自ら実態に即した形式に工夫しており、利用者の24時間の様子を追ったシートを使用し、利用者の心の動きを把握し、介護計画に反映させている。また、介護計画は1か月単位で実施の進捗状況が把握できるような様式になっており、日々、現状に即して見直すことができるようになっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>記録については個々のファイルを作成し、介護計画に基づいたプランを実施している。面会の有無、その他、日々の変化などを記載している。その記録をもとに、ケースカンファレンスを開き、実践や介護計画の見直しを実施している。また、ユニット内だけにとらわれず、他ユニットの入居者の把握ができるように、情報の共有化をはかるため、朝・夕の申し送りを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>サービスの多機能性としては、面会時の待合室や、家族との食事の場所としてラウンジ等を整備している。また、入居者の家族や近隣の方々参加の音楽会や、子どもたちの面会時プレイルーム、宿題をするなどの空間としての子どもカフェを整備している。その他、各種活動ができるよう、地域交流ホールを開放している。一人ひとりの要望に多機能的に応えることができるよう、施設内外を整備し、施設のみで終えることなく、近隣の商店、菊造り作者にも協力を要請し、取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>暮らしを支えている地域資源を把握し、お互いが心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域資源の活用として、鈴張地区の馴染みの医師とのかかわりを大切にし、入居前に介護支援専門員と連携を取り、インフォーマルなケアを実施している。例えば、近隣のお好み焼き屋からの配達や、商店からの仕入れ、地域のスーパーの買い物、ご近所の農家からの野菜のおすそ分けなど、施設内にとどまることなく、地域資源との協働で、安全・安心で豊かな暮らしができるように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>医療は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と依りよい事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>当施設の協力病院は多科であり、地域に存在するすべての医師が協力的に対応している。24時間オンコールにて対処している。また、入居者の多くがかかりつけ医を変えず、現在の生活を行っており、往診や通院を通して、馴染みの医師とのかかわりを大切に行っている。30分以内の場所には、公立病院が存在し、適切な医療を受けられる立地でもある。20床以上の入院病棟を持った、医療の後方支援体制もできている。</p>	<p>近隣の医院に協力医になってもらい、24時間体制で対応を行っているほか、協力医以外であっても受診できるよう、事業所として支援を行っている。救急時の対応や精神科受診など、利用者の必要とされる医療を受けられるよう、支援がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護職員は介護職員を兼務し、協働的に配置している。また24時間オンコール体制を実施しており、緊急時には10分以内に施設へ到着できる地域住民を、看護師として配置している。介護、医療の業務を遂行し、各職員とのチーム協力のもと、様々な環境衛生づくりに努めている。各種会議には、介護主任・看護主任が配席するよう、勤務体制を整えている。各ユニットや個別のかかわりを、介護職員と情報の共有のもと実施している。また、看護師は施設長との連絡ノートを作成し、日々の変化など情報の共有をしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療に専念でき、早期に退院できるよう見舞いなどで様子をみる。いつでも帰る事が安心して出来る様に病状についても、病院関係者との情報交換や相談に努めている。日頃よりそうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者の入退院時には施設長または代理人が同行できる体制を作っている。また、介護情報提供書の早期発行。退院時看護サマリーの情報提供をうけ日常生活に対応できるよう職員との共有化を行う。早期退院に向けての支援や入院時の家族の負担軽減に努力し入院中や、入退院時の準備等の支援を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で出来る事を十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合や、終末期の在り方や死後については、家族を中心に、家族と共に考える機会の提供を行っている。また、事業所として終末期に家人が宿泊できる場所や、葬祭のできる地域交流スペース等を完備している。入居者の中には、終末期までここで過ごすことと決めている方もおり、入居者一人ひとりにあった最期の日を迎える準備を、家人とともにしている。</p>	<p>重度化した場合でも、住み慣れた環境で最後までその人らしい生活が全うできるよう、10分以内に施設に到着できる体制や、家族宿泊室を整備するなど、地域とも協力して、終末期に向けた対応を行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>AEDや急変時の対応方法の実践や、夜間の緊急電話連絡等を定期的の実施している。急変時は、119番通報並びに施設長への連絡を定め、看護師への連絡手順を緊急連絡網に記載し、相互の判断に速やかに対応出来る様にしている。吸引器や酸素ボンベ、自家発電機を完備し、状況に合わせて、急変や事故発生に対応できるように、定期的に研修を実施している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>災害時対策として、入居者と職員や地域住民を収容ができる、一時避難場所の指定を自治会から受けている。また、災害時応援協定を地域と結んでおり、災害時には100人が3日間寝食ができるよう、非常食や飲料水、毛布、医薬品、自家発電機等を取り揃えている。火災訓練についても、地域と共に年間2回以上、避難や誘導、消火器の使用などを、広島市消防局の指導のもと実施している。緊急連絡網の活用訓練も行っている。</p>	<p>事業所内に災害時の備蓄食料や自家発電装置、毛布や医薬品などのほか、地域住民も避難できるスペースを確保しているなど、事業所が地域の防災拠点としての役割を果たしている。また、年2回の火災訓練も行い、市からの指導も受けており、緊急連絡網の整備も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	施設内年間研修として、人権・同和研修を行っている。ケース担当者を決める際に、職員としての視点と、より家人に近い視点を考慮している。職員の育成にも趣きを置き、人として多様な視点を持つ事が双方の尊厳に資することと考えて取り組んでいる。人としての役割づくりを職業において行い、その人を配置することによって、より入居者個々の細部に渡った人格の尊重と、プライバシーの確保ができるものと考え、継続的に努力している。	利用者の人格を尊重し、職員が将来入りたい施設を意識している。また、利用者の生活リズムを尊重し、集団でのプログラムを強制していない。利用者の個性に応じた対応を行うことで、誇りやプライバシーを損なわない介護が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で集団的ケアと個別ケアを総合的に行き、入居者の心身の状況にあわせて支援している。特に入浴や食事については、入居者の意向に沿って自己選択のもと、自己決定を行えるよう、一方的な介護とならないように注意している。幅広く観察し、サービスの提供につとめている。食事に関しては嗜好調査を実施している。入浴については、洋服選びからコミュニケーションを実施するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	介護サービスにおいては、共通項目と個別項目を設定し、個々の介護計画に沿ってサービスを提供している。食事の提供時間は、2時間以内を基本に、一人ひとりの状況、ペースに沿って提供するシステムとしている。その他においては、日々の生活を集団的に実施するのではなく、安全、安楽を考慮、確保しながら行っている。自らが主体的な生活者として、尊厳のある今を過ごせるよう支援している。一日の終わりに「おやすみなさい」と、笑顔で床に就いて頂くように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者個々の、介護計画書や介護指示書並びにフェイスシートにおいて、入居前の状態を把握し、その人が日々行う、その人らしい整容を実施している。髭剃り、毎朝の化粧・口紅つけやマニキュア等の介助、通院や、外出時の整容介助等、日々の目的に応じて、身だしなみやおしゃれを楽しみながらサービスの提供に努めている。整容美容の希望に沿って、定期的に外部の協力も得ながら、身だしなみに取り組んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや働ける力を活かしながら、利用者と職員が一緒に食事の準備、片付けをしている。	食事提供については、契約農家直送の朝採れ野菜を中心に提供をしている。また、さつまいも堀りやこんにゃく作り、漬物づくり等、入居者の今まで培ってきた生活の知恵を生かしながら、食文化や四季折々の季節を楽しむようにしている。無機質的な食器を選らばず、日常慣れ親しんだ陶器食器を使用している。日々の食事作りについても、野菜の皮むき、きざみ、米研ぎ、味噌汁等の味付けの確認、盛り付けや配膳等、入居者一人ひとりの働ける力を、心身の状況に合わせて引き出すよう工夫している。	契約農家の「朝どれ野菜」を提供しており、ビニールハウスや地域に配った苗からできた野菜など、四季折々の新鮮な野菜を提供している。また、日々の食事作りにおいても、入居者の好みや健康状態に配慮した味付けや調理を行っている。さらに、アイランドキッチンを設置することで、職員と一体的に食事の準備を行い、楽しみながら用意ができるような仕組みを整えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて適格にできるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>入居者の心身の状況に合わせて、水分摂取を無理なく小まめにできるよう工夫している。食事量の低下している入居者については、医師やケースカンファレンスなどによって、本人が摂取しやすい食材の提供に努め、統一した食事内容ではなく、その入居者の生活習慣と栄養バランス、嗜好、季節の物、香の物(三つ葉・ネギ・冥加・柚子等)を添えた食事の提供を行っている。また、フレッシュな果実の提供を行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口内は、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。清潔保持は自歯、義歯により適切な対応をしている。</p>	<p>毎食後、入居者の心身の状況に合わせて、口腔内の清潔に努めている。洗面台にはうがい薬を設置し、日々うがいを励行し、感染症の予防と嚥下機能の低下を予防する観点から、うがい、手洗いを職員も含めて実施している。また、介護計画書や指示書によって、個々の口腔内の清潔について、一人ひとりに合わせた声掛け介助等のサービスを提供している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らす。一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かし、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の心身の状況に合わせて、排泄介助を実施している。事前に情報を収集し、排泄のパターンや薬剤によるコントロールを行っている等、継続して、改善に向け、働きかけている。個々の排泄パターンを記録し、失禁を未然に防ぐ努力をしている。特に、排便については総腸運動を効果的に行うことができるように、その入居者にあった介護の方法を生み出して、個別の介護計画や介護指示書に基づき、医療職と連携しながら実施している。</p>	<p>排泄チェック表では、職員の記入負担を軽減しながら、排泄状況がよくわかるシートを活用しているほか、バットの使用量を減らす努力が日常的になされている。個別の介護計画に基づき、医療職と連携しながら、排泄の自立に向けて取り組んでいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食事の研修や排泄の研修等、生活支援技術講習を実施している。特に、生活支援技術については、基本の確認と個々の入居者に応じた技術向上を目的としており、その原因や及ぼす影響を理解し、適切に対応できる様、研修の回数を重ねている。また、便秘の予防対策として、食事・栄養・水分の3項目に着目して、入居者一人ひとりを対象に、ケースカンファレンスを実施し、具体化している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員が都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴時間については、原則、職員がユニット内に2名以上配置されている時間帯であれば、曜日に関係なく入浴できる体制づくりをしている。1週間のスケジュールを作成している入居者もあり、そのスケジュールに沿って入浴を実施したり、排泄のコントロールに合わせて入浴するなど、一人ひとりの心身の状況に合わせて入浴の機会を提供している。また、入浴剤を使用したり、柚子風呂・しょうぶ湯・足湯・ミストサウナ・ヒノキ湯等、入浴を楽しむ機会の提供をあわせて行っている。</p>	<p>利用者は週3回以上入浴ができている。入浴剤やハーブなど、気持ちよく入浴できるような工夫や、手すりの効果的な設置など、どの利用者も安心して浴槽につかれる工夫もなされている。また、希望者にはヒノキ風呂、ミストサウナ、足湯など、入浴を楽しむための工夫が随所で見られる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>入居者一人ひとりの心身の状況を、朝夕に申し送り、判断材料としている。その時々々の状況に応じて、休息をとるようにし、サービスを提供している。夜間の安眠については、必要以外の薬に頼ることなく、話を聞いたり、室温・湿度・採光に気を配り、自然な流れで床に就くよう心掛けている。夜間不眠時の折には、お茶などの提供が容易にできる設備を設けている。また、昼夜逆転することが無いよう、日中の生活を個々に合わせて活動的に行っている。朝日に当たる、外気に触れるなど、自然と体とのトータル的なかわりを重視して、安眠へつながるよう努力している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬管理は原則職員が実施している。しかし、個々の入居者の状態により、誤飲等の可能性の無い入居者については、職員の見守りの中で点眼等を自分で行っている。医師や薬剤師並びに看護師の薬に対しての説明や相談を、日々、受けられる環境を整えることによって、入居者が安心して医療支援を受けることができるよう配慮している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>入居者の日々の心身の状況に合わせて、地元の各種講師をボランティアで招いて、陶芸教室・フラワーアレンジ・書道・ものづくり教室等を実施している。また、この地域には寺院が6つあり、毎月、各寺院の法話の機会を得ることができる環境を整備している。その他、施設から徒歩3分の場所にコンビニエンスストアがあるため、好きな弁当やパン等を購入できる近況がある。気分転換に、車でスーパーまで買い物をする機会を支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>ドライブツアーや買い物ツアー等、外出の機会を家族やボランティアの方の協力を得て実施している。中でも、春のシャクナゲ見学や秋の紅葉狩り等、家族と共に車で出かける機会は、入居者にとって普段行けない場所へ行く機会を得ている。また、釣り堀へ行き、ヤマメを釣り施設で釣ったてを炭火で焼いて食すなど、日常的な外出だけでなく、本人の希望に沿えるよう、地域資源を生かしながら支援をしている。</p>	<p>近隣のコンビニやスーパーマーケットのほか、家族やボランティアの協力を得て、ドライブツアーや釣り堀などへ出かけている。日常的に外出できるよう、様々な形で支援が行われている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>ユニット内には金銭の持ち込みは禁止している。小口現金として、事務室金庫にて個別に保管をすることにより、入居者の安心につながるよう、全職員が共通理解をし、サービスを実施している。外出先での買い物等に関しても、職員が金銭の管理をするのではなく、本人が販売員にお金を払うなど、直接的に金銭のやり取りができるよう支援している。また、洋服やその他の必要物品を、入居者とともに家族に代わって代行するサービスも実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>書道教室で書いた年賀状を出している。家人の協力の上で自らが電話をしたり、手紙をだしたりできる支援を行っている。また、近隣の小学校・保育所の園児や児童とのかかわりを年間を通じて実施しており、その中で手紙のやり取りや花の苗のやり取り等、一度で終わらず、次につながる支援に重きを置き、サービス提供に努めている。</p>			
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共同生活室の在り方については、居室と共同生活室の距離を、その入居者の心身の状況に合わせて入居時に決めている。居室については、室名札等は一切使用せず、家庭的な空間づくりを心掛けている。また、ユニットを一步出ると、おもてなしの空間として、入居者や来訪者が居心地よく過ごせる工夫をいたるところに整備し、BPSDの出現を抑えることができるよう配慮した設計を心掛け整備している。</p>	<p>照明や居室の配置、廊下は畳敷きであるなど、利用者が落ち着いて過ごせるような工夫がなされており、居室ユニットがあるスペースと地域交流スペース、家族の宿泊室などは、共有スペースから視界が外れるように設計がなされているなど、利用者が安定して過ごせるような工夫がなされている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>2ユニットを平屋に設置し、両ユニットの行き来を入居者ができるように整備した。このことで、気の合った入居者同士で過ごすことができ、全室個室であるため一人になれたり、他の入居者を招き入れたりすることを日常的に行っている。また、畳廊下等にセミパブリックスペースを設置し、各々の居場所づくりを可能とし、中庭に出て外気に触れ、飲食をすることもできる工夫をしている。</p>			
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居にあたっての原則を、本人又は家人が施設見学を実施してからとしている。このことにより、何度も施設内や居室を見に来て、本人と家人が相談しながら使い慣れたものや、カーテン等の持ち込みを行っている。また、家人が遠方であったり、来設が困難な場合は、季節に応じた家庭用品の購入を職員と共に実施する等、柔軟な対応を実施している。</p>	<p>居室には使い慣れた家具を持ち込むことができるほか、洗面台が各居室に設置され、生活が保てるようになっている。また、暖かい空気を保つまま換気ができるよう工夫がされているなど、本人が居心地よく過ごせるような配慮がなされている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりやクッションフロアを整備し、入居者の安全を確保している。トイレを狭く整備したため、転倒防止と安全かつ入居者が自立して排泄できる工夫を施し、整備した。また、浴室については、3方向から介助のできる浴室や檜風呂や打たせ湯・足湯・ミストサウナを整備し、重度化しても心身に負担をかけずに入浴を楽しむことができる工夫をした。食事については、アイランドキッチンで共同生活室の中央部分に設置したことにより、大空間の中に手すりを付けることができ、入居者が自立した行動範囲を拡大することができる。食事作りの参加や食事を作る香り・食器を洗う音等を日常的に楽しむことができる。その他、ユニット間を繋ぐウッドデッキや季節を楽しむ四季の庭・畳廊下等、入居者一人ひとりが安全で、自立した生活が送れるよう工夫している。</p>			

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームこころ

作成日 2017. 4. 11

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外出支援として年間を通じて計画的に実施し日常的に中庭や屋上など戸外に出かける支援をしているが、家人との外出の全くない入居者がいる。	桜をみたい。車に乗りたい。	4/10～4/14の期間で桜ドライブツアーを小人数で実施する。	1週間
2	57	利用者と職員が一緒にゆったり過ごせない。	8時間夜勤の導入をすることにより、日勤帯の職員を増やす。	シフト変更	3か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。